

## 総合的・横断的に領域「表現」を学ぶ授業の取り組み

## A Comprehensive and Cross-Curricular Approach to the Classes in the Domain of 'Representation'

中山 里 美

NAKAYAMA Satomi

## 【要約】

領域「表現」を総合的・多面的に捉えて学習するための授業実践に取り組んだ。①表現の総合性、②表現の過程、③他領域と関連させた授業をポイントに 6 種類の授業研究を行った。「素材の提示や展開方法の工夫」「科目連携による総合的授業」「グループ活動と造形あそび」「ドキュメンテーションの作成」等の取り組みにより、学生は表現の多様性を経験しすることができた。総合的な表現活動を通して、領域「表現」のねらいや内容の理解を深めることができた。

キーワード      領域「表現」      5 領域      科目連携      総合的学習

## I はじめに

平成 29 年幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂、保育所保育指針の改定及び告示が同時に行われた。幼稚園、幼保連携型認定こども園とともに保育園も含めて「幼児教育施設」として位置づけられ、教育機関として明示された。これに伴い、養成校における教育課程の見直しと新しいカリキュラムの編成が行われる。

新しい幼稚園教育要領では、幼児教育における基本的な部分や幼児期に育みたい力がさらに明確になり、小・中・高へと繋がる共通する力の育成が示されている。また、<sup>1)</sup>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として具体的に 10 の項目が明示された。

(1) 健康な心と体

(2) 自立心

(3) 協同性

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

(5) 社会生活との関わり

(6) 思考力の芽生え

(7) 自然との関わり・生命尊重

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

(9) 言葉による伝え合い

(10) 豊かな感性と表現

すべて 5 領域の中に出てくる内容であるが、このうち (10) 豊かな感性と表現が領域「表現」で最も期待される育ちの観点となる。領域「表現」の「ねらい」と「内容」は現行の幼稚園教育要領とほぼ同じだが、「内容の取扱い」では <sup>2)</sup> 豊かな感性を養うために、自然の中にある音、形、色などに気付くようにすることや、<sup>3)</sup> 様々な素材や表現の仕方に親しむことを奨励し、追加している。

## Ⅱ研究目的・方法

### 1. 目的

現在実施している本学のカリキュラムの領域「表現」に関連する学習は、「保育の内容・方法」として保育内容（音楽表現Ⅰ）（音楽表現Ⅱ）、保育内容（造形表現Ⅰ）（造形表現Ⅱ）の計4単位に加え、「保育の表現技術」として音楽と図画工作が各4単位、体育と国語表現を各2単位（※一部選択科目）開設してきた。本学の幼児教育学科は「感性」をキーワードにし、カリキュラム・ポリシーの（3）に掲げる「豊かな感性と子どもへの深い愛情を育む全人的教育」に重点を置き、表現系の授業時数を多く行ってきた。指導形態・方法については、教科（音楽・図工・体育・国語）に分かれ、科目担当者がそれぞれ専門とする教科的な内容を中心にして指導に当たっている。演習科目としての時間数は多くても、学生が「幼児の表現」と「領域・表現」を学ぶためには、より総合的・多面的な学習内容を検討し改善することが必要である。「幼児教育」の生活全体を通じて総合的に指導にあたるという特性を生かすため、5領域が相互に関連し合う横断的な学びを養成校においても強化することが望まれる。新しい教育課程でのカリキュラム編成を控え、「教科」の専門及び指導法は「領域」の専門及び指導法に改編される。現在担当している「造形表現」を超え、教科科目を融合した表現の学びや、表現を他領域と関連させた授業実践に取り組み、幼児教育を担う専門性豊かな保育者を育てるための授業について検討したいと考えた。

### 2. 方法

#### （1）授業研究

- ① 領域「表現」の総合性を理解するための授業実践
- ② 表現する過程を大切にしたい授業実践
- ③ 他領域と関連させて表現や指導方法

## を学ぶための授業実践

### （2）授業の振り返りと評価・考察

## Ⅲ授業実践

### 〔実践1〕

#### 保育内容（造形表現Ⅰ）

題材「見えないものを描く」90分（全1回）

対象：幼児教育学科1年

材料・用具

**教師** 楽器

- ・トーンタング    ・ツリーチャイム
- ・レインスティック
- ・カホンまたはビブラスラップ

食物

- ・ピーナッツ    ・タマゴボーロ
- ・レーズン    ・チョコレート

四つ切画用紙

**学生** クレヨンまたは水性マーカー

ねらい

見えないもの（音・味・心情）を五感を通して感じ取り、抽象的な図柄で自由に描くことを楽しむ。

聴覚、味覚、嗅覚、触覚や感情等の感覚や働きと視覚表現とのつながりを感じ取る。

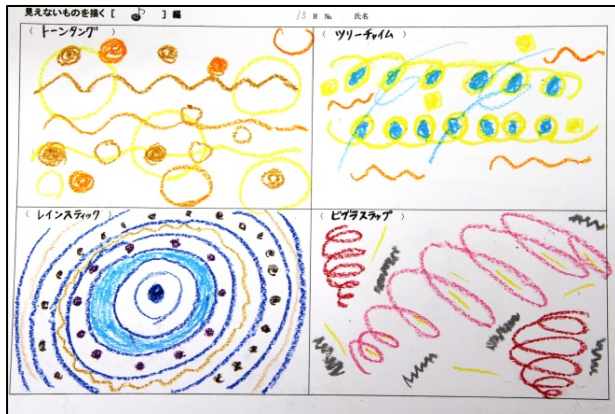
描画による表現が、視覚を通じた観察や記憶再現に留まらず、様々な感覚の表現を含んで表すことが可能であることを知る。

互いの作品を鑑賞し、描画表現の違いや個性を認め合う。

展開・流れ

- 1) 衝立に隠れた教師が演奏する4種類の楽器の音を一つずつ聴き、抽象的な図で画用紙に自由に表現する。音の強弱や高低、音色やリズム等の変化によって様々な描画に表さ

れることに気付く。



左上：トントンク

右上：ツリーチャム

左下：レインスティック

右下：ビブラスリップ

2) 配布された4種類の食べ物を1種類ずつ食べ、それぞれの味覚を絵に表す。匂いや歯ごたえ、食感に加えて本人の嗜好等が描かれた色や形、線に少なからず影響していることに気付く。

3) 「喜・怒・哀・楽」4つの感情を画面ごとに分けて描く。色の選択や、配色、ストロークの筆圧等、表現が感情と関わりながら現れていることに気付く。

4) グループ内でお互いの作品を鑑賞する。自身の表現と他者の表現の違いや共通する部分、幼児の描画と関連付けて話し合う。

## [実践2]

### 図画工作 I—1

題材「絵具をあそぶ—絵本制作」180分

対象：幼児教育学科1年 (2回)

材料・用具

**教師** 共同制作用ポスターカラー (赤・青・黄)、馬毛丸筆 (大)、割箸、スプーン、プラスチックコップ、梅皿、水入れ、雑巾、四つ切画用紙、Wカラークラフト紙、色画用紙片

**学生** 油性マーカー、水性糊

ねらい

描画材としての絵具にこだわらず、「えのぐ」を「もの」として関わることで、幼児が絵具と触れ合い、働きかける感覚を体感する。

画面や絵具との関わりから体感した感触や行動を振り返りながら「オノマトペ」で表現し、言葉と感覚や行為、描画表現との繋がりに気付く。

## 展開・流れ

1) 1/2 次 2歳の幼児が絵具で遊ぶ姿の動画を視聴する。絵を描くための素材ではない「もの」との関わり方や遊び方に気付く。

2) 配布された絵具や材料を使って、「えのぐ」と初めての出会ったつもりで楽しみながら活動を進める。少しずつ抵抗感が薄れてきて、絵具の感触を直接楽しみ始める。

3) 描くことを超えて、たたく、こする、削る、破る等、破壊的な活動が出てくる。情動を吐き出すような行為や行為から発する



音や感触などを感じる。

「えのぐ」との触れ合い、関わりを楽しむ様子

4) 2/2 次 教師による絵本の読み聞かせ

- ・ピリンポリン (西巻かな)
- ・ころころころ (元永定正)
- ・こっちゃん とてん (かたやまけん)
- ・もこもこもこ (作：谷川俊太郎 絵：元永定正)

5) 「オノマトペ」擬声語・擬態語について

例を挙げながら、語音と意味の結びつきや効果について知る。

6) 絵具あそびで出来た作品を二つ折りにして貼りあわせ、Wカラークラフト紙の表紙を取り付けて製本する。

7) 各ページの画面から感じられる素直なイメージを基にして、思いついたオノマトペを画面に書き込んだり、貼りつけたりする。色や色の組み合わせ、ストロークやタッチ、画面構成から様々な感覚が呼び起こされることに気付く。



オノマトペが記入された画面

8) グループ内でお互いの作品を鑑賞する。画面に言葉が加わったことによる効果や各自が感じ取ったことを話し合う。

### 〔実践3〕

クロスカリキュラムによる総合的授業

保育内容（造形表現Ⅰ）450分（5回）

保育内容（音楽表現Ⅰ）270分（3回）

題材「音を楽しむ音具づくり」

対象：幼児教育学科1年

全8回授業の展開・流れ

第1回（音楽表現Ⅰ）

「素材と音楽表現遊び・音を感じる方法」

音と言葉の関係や音の出るしくみ（発音原理）を知る。

第2回（造形表現Ⅰ）

「素材との触れ合い・音との出会いと発見」

身近な素材から生まれる音に気付いたり、作り出したりして音表現を楽しむ。

第3・4回（造形表現Ⅰ）

「素材と表現・音を楽しむ音具、オブジェの制作」

各自で使ってみたい身近な素材や廃材を準備し、さまざまな素材に触れながら、デザインや機能を工夫して、音を楽しむための音具（オブジェ）をグループメンバーと協力して作る。

第5回（音楽表現Ⅰ）

「音で遊ぼうー曲作りー」

音色やリズム・速さを生かし、形式や構成などを工夫して制作した音具（オブジェ）を弾いて、グループ内で曲を作る。

第6回（造形表現Ⅰ）

「図形楽譜を描こう」

五線譜では表せない音や曲を、各自が感じたイメージを基に自由な発想で図形に表記する。

第7回（音楽表現Ⅰ）

「図形楽譜を用いて演奏しよう」

グループごとに色や形で表された楽譜を見ながら演奏を楽しむ。

第8回（造形表現Ⅰ）

「音具の解体・まとめ」

作品を解体し片づける。振り返りシートを記入する。

ねらい

教科としての音楽や図画工作に分化する前段階の、子どもが主体となる表現活動を経験することにより、教科の枠にとらわれない豊かな表現や子どもの素朴な表現に気付く。身近な素材に主体的に触れ、対話すること

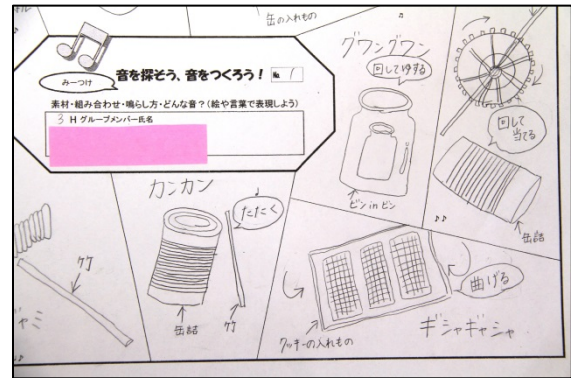


から生まれる活動や遊びの過程をグループで体験し、「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」楽しさを味わう。

子どもの表現の育ちや、子どもの素朴な表現と向き合うために保育者が心掛けたいことや子どもとの関わり方について考える。



## 第2回授業：準備した様々な素材



第2回授業：見つけた音を記入したプリント



第3・4回授業：完成した音具



第6回授業：完成した図形楽譜



第6回授業：完成した図形楽譜

(立体的に曲を表現したグループ)

## ●「振り返りシート」から

〔音楽表現Ⅰ・造形表現Ⅰ総合的授業の感想〕

- ・音楽と造形が繋がりととても楽しかった。コラが授業を通して、表現する楽しさや友達と共有する喜びを感じた。
- ・様々な素材を手に持ってたいたり、振ったり、こすったりすることが楽しかった。班の人と一緒に音具を作り、リズムを考えたことが良かった。この授業では表現についてだけでなく、協力する楽しさや大切さを学ぶことができた。
- ・表現することの楽しさや面白さを経験することは、子どもだけでなく保育者自身にとって大切な経験になると感じた。
- ・何からでも音が表現できると知り、身近な素材で表現することができる楽しさを伝えていけるような保育者でありたいと感じた。
- ・普段は音を気にせずに使っている容器が音具

に変わっていくことに驚いた。図工と音楽は違うものだという認識があったけど「表現」ということで繋がり、色々な世界が広がるなと思った。

・子どもたちは日々新しいものと出会い、たくさん発見をしながら過ごしているので、私が音具作りで感じた「やってみたい」「どうしたらいいかな」というような思いを大切にし、子どもの気持ちに寄り添って関わっていききたい。

〔「表現」に関して、あなたが大切にしたいことや心掛けたいこと〕

・子どもの自由な発想を大切にし、自由に表現できるように、援助の仕方や環境の構成を考えていきたいと思う。「こうしなければならない」ではなく「どうしたらいいだろう」という姿勢で子どもの活動を進めていき、自由に表現する楽しさを知らせたい。さまざまなものに触れたり、音を聞いたり、驚いたり、喜んだり等、多くの経験を子どもたちができるような保育をしていきたい。

・自分で見つけた音を友達と共有し、自分なりの表現をするところが、子どもの遊びと共通していると思った。表現する楽しさを子どもの目線から感じる事ができた。保育者として、自分なりの表現を引き出す援助が大切だと思った。子どもが自ら表現したくなるような雰囲気づくり、表現の幅が広がるような環境構成や材料の用意を心掛けたい。

・授業を受けているうちに、表現は自分が感じたことややってみたいと思ったことを自由にしたいのだと気付いた。特に保育の中での表現は型などなく、子どもたちは思い思いの感性で表現するので、保育者としての受け止め方が大切だと思った。授業の中で学んだことを活かして、子どもたちがもっと表現力を増やすことができるような援助をしたいと思う。



・子どもそれぞれの率直な表現を受け止める姿勢を大切にしたい。子どもと一緒にその表現を共有し楽しむことが大事だと思う。見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことを伝えたい、表現したいと思えるような環境構成や雰囲気作りも大切だと思う。

・「偶然できたもの」を大切にしたい。表現活動の中には偶然出会ったものからイメージを広げることがある。「こんなものができた」「こんなことになった」という体験が子どもは楽しくなったりうれしかったりするのではないかな。

・自分の好きなものを自由に好きなように表現することができた。表現しない子やなかなか表現できない子どもがいたとしても、表現することを強制するのではなく「しない、なかなかできない」ことが、その子にとっての表現の仕方であると考えて関わるのが大切だと思う。

#### 〔実践4〕

##### 図画工作Ⅰ—1

題材「造形あそび—色と水」90分（1回）

対象：幼児教育学科1年

材料・用具

**教師** プラスチック透明コップ ポスターカラー空き瓶 ペットボトル プリンカップ スポイト ビーズ プラスチックミラー 塩ビ板 アクリル板 エアキャップ ストロー 透明プラスチックスプーン 魚型醤油入れ アート紙（白） ティッシュペーパー 和紙 画用紙 水に溶いた染料（赤・青・黄・緑・水色・青竹・牡丹・紫）

ねらい

色水と他の用具を選び、自分なりの使い方を考えてグループで遊んだり作ったりする。

以下の「造形あそび」のねらいについて活

動を通して知る。

・自分から人やもの、場に働きかけることを楽しむ。

・目的やそれを実現する方法を見つけたり、試したりする。

・遊びを通して得られた知識や技能を自分のものにする。

遊びの活動中に「感じる→考える→行動する」流れが繰り返されていることや造形的思考力が働いていることに気付く。

展開・流れ

1) 教卓に置かれている色水や様々な用具を使ってグループごとに遊ぶ。色水を様々な色に変化させることや発見することを楽しみながら遊ぶ。

2) ワークシートにグループで行った活動や遊びを、文章や図を使って記入する。活動を振り返り、気付きや感想を記入し、グループ内で発表する。



上 色水を作り、瓶をミラーやプラバン上に積む。

下 色水を入れたコップを重ね、ミラーで映す。



プラバン上に色水の水滴を垂らして重ね、ライトを当てる。下の紙にも水滴が映る。

#### ●「ワークシート」から

- ・グループでいろいろ話し合いながら、試行錯誤しながら発見や喜び、楽しいと思える環境で出来たことが嬉しかった。
- ・いろんな色を順番に混ぜながら、鏡の上でゆっくり変わってしていく様子を見ていくことが面白く、発見につながっていった。そこから「もっとこうしてみよう」という思いに繋がって、アイデアが生まれてきた。
- ・最初は何をしたらいいのか、自分はどうしたいのか全く分からなかったが、遊び始めるうちに「次はこんな風にしたい」「こうしたらどうなるかな」と、気持ちがどんどん積極的になってきた。これが「表現を楽しむ」ということだなと感じた。
- ・グループで取り組むといろいろなアイデアがあることに気付いた。人が楽しんでいるのを見て、自分もやってみたいと思えた。「こんなことやってみよう」と相談したり、一緒に「すごいきれい」と発見して喜んだりすることが楽しかった。
- ・色水と光の融合が印象的だった。表現を楽しむと同時に、「きれい」という感情表現も豊かになったと感じた。

〔実践5〕

#### 図画工作Ⅱ—2

題材「玉ころがし装置制作と見える化」

450 分 (5 回)

対象：幼児教育学科2年

材料・用具

**教師** 段ボール箱 段ボール板 ピンポン玉 ビー玉 ラップ等紙管 牛乳パック トイレットペーパー芯 空き箱 空きプラスチック容器 ペットボトル 各種紐 ガムテープ その他のテープ類 木工用ボンド その他の接着剤 画用紙 白板厚紙 アクリルガッシュ 等  
カッターナイフ 段ボールカッター はさみ 千枚通し等

ねらい

段ボールや紙筒等、様々な素材を組合せたり加工したりして、ピンポン玉やビー玉が面白くころがる装置を工夫して制作する。

グループ内で意見を出し合い担当分担し、試行錯誤しながら活動を進めることにより、「自立心」「協同性」「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心」「言葉による伝え合い」等他領域と関連した育ちが期待されることに気付く。

制作過程での学びや育ちの大切さを理解する。活動のドキュメンテーション作成を通して、その役割や効果について考える。

展開・流れ

- 1) 玉ころがし装置の作例やドキュメンテーションの作例を鑑賞し、題材に対する制作の見通しを持つ。グループ内でアイデアを出し合い、スケッチを基に構想を話し合う。次時に向けて準備したい材料や撮影・記録係などの役割分担を行う。
- 2) 教師や各自が準備した材料を使って装置を制作する。試行錯誤を繰り返し、意見交換しながら活動を進める。各工程でポイントと思われる状況を写真撮影し、授業の終わりに制作を振



り返り、取り組みを記録する (2 コマ)。

3) 完成した作品を設置し、付属幼稚園の園児に遊んでもらう。各グループの代表が園児の遊ぶ姿を見守り、観察する。

4) グループ内で代表者が見た園児の遊ぶ様子を報告する。制作を振り返り、ドキュメンテーションで見える化したいポイントや構成を考えた後、模造紙で作成する (2 コマ)。

5) 各グループのドキュメンテーションをホワイトボードに掲示し、相互鑑賞を行う。



装置で遊ぶ園児と見守る学生



ドキュメンテーションの一部

〔実践 6〕

授業内容の連携 [1]

保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰ－１・保育内容 (造形表現Ⅰ)

1 年次

＜内容＞ 自己紹介 BOOK 制作と実演

保育内容 (造形表現Ⅰ) 授業でスケッチブックに学生が幼児の前で自己紹介に使用する補助教材を作成。

保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ－１事前学習授業で実演練習を行う。

保育実習Ⅰ－１実習期間に実習先で幼児の前で実演し、ワークシートに事後レポートを記入し、提出する。



完成したスケッチブック 挨拶のページ

授業内容の連携 [2]

保育実習指導Ⅱ・保育内容 (造形表現Ⅱ)

2 年次

＜内容＞ 「つくって、あそぼう」指導案の作成

保育内容 (造形表現Ⅱ) 授業で身近な材料を使った手作りおもちゃ (ストローロケット・紙皿のコマ・牛乳パックのパッチンガエル・トイレットペーパー芯ロケット) を製作する。

保育実習指導Ⅱ授業でおもちゃ製作と遊びの活動を繋げた指導案を作成する。実際に自分が製作した経験を思い出しながら、幼児の発達過程にふさわしい活動を考え、やねらいと内容設定、環境構成と材料の準備、活動の流れと留意点等について学ぶ。

提出された指導案を担当教員が一枚ずつ

添削する。さらに集団あそびを題材に指導案を作成する。

＊指導案の作成は保育内容（造形表現Ⅱ）の模擬保育でも行う。

連携[1]は1年生が保育実習Ⅰ－1（未満児実習）、連携[2]は2年生が保育実習Ⅱ（3歳以上児実習）に向けて取り組んでいる学習である。実習指導は複数の教員が担当しており、学生各々の指導案添削や実演の講評等、きめ細かい指導が可能である。

#### IV評価と考察

領域「表現」に含まれる身体・造形・音楽表現について、入学間もない学生は、高等学校での教科授業の延長上の体育（ダンス）・美術・工芸・音楽科目としての捉え方が強い。それぞれに得意、苦手意識をもつことが多く、特に「運動技能」「描画力」「演奏技能」としてコンプレックスが強い学生も少なくない。保育者として子どもたちに寄り添い、幼児の表現活動を支援するためには、学生自身が表現することを楽しみ、表現の結果として残る作品の優劣や評価を気にしないで造形活動に取り組む必要がある。

実践1「見えないものを描く」は、描かれた作品の出来栄を気にすることなく、抽象的な描画表現に取り組めた。各自が五感で感じ取った感覚を表すことによって、一人一人が異なる色や形、ストロークを躊躇することなく選択して描いた。作品を個々の感性の表出の結果として捉え、制作に自信を持つことができた。さらに自身の感じたことを素直に表現することが自己肯定感に繋がることを実感するきっかけとなった。一人として同じでない作品に対して共感し評価できた経験が、子どもの表現にも通じることを理解することができた。

造形表現は、素材を用いた活動が中心である。

その中でも描画材を使って描く活動に比重を置くことが多い。幼児の段階で高い描写力を求め、本人の思いや意欲から離れて大人が満足できる絵を半ば強制的に描かせていると思われる取り組みが現在も見受けられる。学生の中にも同様の捉え方をする傾向が見られる。実践2では、絵を描くための材料として「えのぐ」を、大人が考える素材とは異なるものとして扱い、「遊ぶための素材」として取り上げた。2歳児が絵具で自由に遊ぶ姿を動画で視聴することで、感触を楽しみながら色の変化に驚き、次々と自身の働きかけから生まれる素材の変容を新鮮な目で楽しむことができた。遊びの結果として残った作品に、感じた言葉（オノマトペ）を添えることは、学生には語彙数の少ない幼児が感覚的な言語を発するような疑似体験ができたのではないと思われる。

実践3、4、5は全てグループ活動として取り組んだ。学生の大半はグループ活動を好み、その楽しさを強調することが多い。ワークシートの感想にもメンバーと共に発見したり、意見やアイデアを出し合ったりすることの喜びや楽しさが多く記述されていた。共同での造形遊びや音遊び、発展的制作活動は、幼児の豊かな感性と表現に加えて、他領域と関連した多様な育ちが期待できる。今後は学生が体験し実感したことを幼児に当てはめ、模擬保育に活かす意識を持たせたい。

実践3の音楽表現と科目連携した取り組みは、学生にとって新鮮な活動として好評であった。身近な素材から生まれる音の面白さや、音が鳴るように工夫しながら組み合わせる作ることの楽しさを十分体験できたようである。振り返りシートには幼児の表現の多様性を踏まえて、受け入れ方や援助、環境構成の大切さを強調する記入が多かった。学生には、音・形・色・感触・動き、全ての要素を合わせた表現を総合的に感じるきっかけになったと思われる。

実践5では制作過程での学びや育ちに目を向けた。ドキュメンテーションを作成することで、表現の過程の大切さをより意識することができた。

ドキュメンテーション作成は、この後に保育・教職実践演習の授業でも取り組まれた。作成したドキュメンテーションは、学生の企画による付属幼稚園親子を対象とした「遊びの広場」活動の様子を伝えるため、実際に園舎で掲示された。保育現場に近い実践的な学習に繋げることができた。

実践6での連携授業は保育内容（造形表現）で制作した教材の実演や指導案作成を行った。児童文化財の制作を造形の時間に行っ田た後、実演する時間が足りなかったため、実習指導の時間に実演練習を組み込んだ。「言葉」担当教員の的確なアドバイスや複数の教員の前で実演することにより、学生に確実な技術の向上が図られた。

#### V 今後の課題

新しい教職課程では領域ごとに専門性や指導法を学習する。領域「表現」では今までの教科的な学習から、より総合的な捉え方をした学習が要求されている。身体の様々な感覚を働かせた総合的な表現活動に取り組むことで、表現の多様性や多面性を学ぶことができる。そのためには、身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現を担当する教員がお互いの教育内容や方法を情報交換し、授業の目標を確認しながら系統的に学習計画を立てることが大切である。

今後は、保育内容（音楽表現Ⅰ）と（造形表現Ⅰ）で取り組んでいる授業形態を、身体表現や国語表現授業担当者とも連携し、総合的で効果的な学びを工夫したい。新規科目として本学が開設を予定している「子どもと遊び」では、複数教員による授業担当が予定されている。担当者間で話し合い、幼児が遊びの中で感性豊かな表現を育むための保育技術を、学生が効果的に学べる指導内容を

を検討していきたい。

#### 引用・参考文献

1) 2) 3) 文部科学省(平成 29 年 3 月告示) 幼稚園学習要領

無藤 隆・汐見稔幸 編 (2017) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかり BOOK 学陽書房  
無藤 隆 (2017) 3 法令改訂 (定) の要点とこれからの保育 チャイルド本社

難波純子・中山里美 (2015) 保育内容表現領域における総合的授業の実践一音を楽しむ音具づくり― 全国保育士養成協議会 第 54 回研究発表論文集 p.142

難波純子・中山里美 (2016) 保育内容表現領域における総合的授業の実践一音を楽しむ音具づくり(2)― 全国保育士養成協議会 第 55 回研究発表論文集 p.295

無藤 隆代表・保育教諭養成課程研究会編 (2017) 幼稚園教諭養成課程をどう構成するか 萌文書林

山野てるひ・岡林典子・鷹木 朗 編著 (2013) 「表現」エクササイズ&なるほど基礎知識 明治図書

辻 政博 (2013) 図工のきほん大図鑑 PHP 研究所

北沢昌代 畠山智宏 中村光絵 (2016) 子ども  
の造形表現―ワークシートで学ぶ― 開成出版  
野出正和 (2017) コロコロドミノ装置 Kids 工作 BOOK いかだ社

平田智久・小林紀子・砂上史子 編 (2010) 保育内容「表現」 ミネルヴァ書房

無藤 隆監修 浜口順子編者代表 (2007) 事例で学ぶ保育内容 領域表現 萌文書林

西巻かな (2014) ピリンポリン こどものとも



0.1.2 福音館書店

かたやまけん (2016) こっちん とてん こども

のとも 0.1.2 福音館書店

元永定正 (1982) ころ ころ ころ 福音館書店

谷川俊太郎 作 元永定正 絵 (1977) もこ も

こもこ 文研出版